

第169号

「あたたかい家族」

夏休み中のやらねばならぬ仕事もやっと終わり、CAMPでの写真を見る時間ができ、のんびりと見ています。ふっとある想いが浮かんできました。「みんなひとつの家族のような表情だな・・・。」年齢もばらばら、顔もばらばら、学校もばらばら・・・。



この2枚の写真なのですが、撮ったのは私ではありません。すべてスタッフさん達です。左・・・小学1年生から中学3年生までがひとつになっています。中2の男の子が6年生を抱えています。右・・・高校1年生、6年生、3年生、2年生、ポーズは気がついたらこんなポーズになっていた・・・？

子ども達の見せてくれる表情は、『地球はひとつだよ』『みんなで仲よく生活しようよ』といった私たち大人たちが一番守ることの出来ない基本を教えてくれます。今も世界のいたるところで、人同士の殺し合いが繰り広げられている中、この子たちの気持をそのまま世界中の人たちに伝えたい・・・。「ねえみなさん。みんななかよくせいかつしましよう。こんなふうにね・・・。」と、この子たちは教えてくれます。我が国、日本にとっては『戦争』こそないものの、社会で働く大人達、学校で机に向かう子ども達、ほとんどすべての人々が少なからず『争い』の渦に巻き込まれています。

その人たちの表情からは『不安』に満ちたものが感じられ、やがてこころは『うつ』になり、すべてがつまらない、すべてがくだらない・・・。という悪循環になっていきます。でも救われるものがあります。この『笑顔』。お父さんお母さんがこの表情をごらんになってどうお感じになられたか、普段見せたことのない表情でしたか、それとも普段どおりでしたか、一抹の寂しさをお感じになられたでしょうか、それとも感激し、涙を浮かべられたでしょうか。わたしはこの子たちに、この気持のまま大人になって欲しいと願っています。この子たちがやがて『家庭』を築いたとき、このときの気持で『我が子』に接してほしいと願っています。あたたかい家庭がある限り、その家庭からは『非行』だと『犯罪』だと、あるはずがありません。どの子にも何が良くて何が悪いかぐらいはわかります。悪いことをする瞬間、あたたかい家庭であれば『家族の顔』が浮かびます。悪いことなど出来るはずがありません。でも今は、この日本の中での犯罪の4割が少年犯罪なのです。『家庭』はどうなってしまったのでしょうか。子ども達の心の『基本』は家族によって培われます。母を想うこころ、父を想うこころ、兄弟を想うこころ、家族を想うこころから友だちを想い、先生方を想い、そしてやがて現れるであろう『異性への想い』・・・。

この想いの原点があれば、きっと子ども達はしっかりと足どりで、自力で歩くことが出来るはずです。誰が促すことなく『自立』が生まれます。この2枚の写真を見、いつもいつも必ず出てきてしまう言葉・・・。「ありがとう」毎年必死の想いで有休をとり参加されるOLさんの「Mちゃん」、あなたは「このキャンプがわたしにとっての本当のお正月なんです。」と言ってくれましたね。本当にそうだよね、この笑顔見られるものね、こころが綺麗になるものね。そんなあなたの言葉にも「ありがとう」また来年、この笑顔に出会いましょう。